



第一章

いかに生きるか

見るだけで頭の下がる人がある。

私はそのような人になりたい

見るだけで拝みたいような人がある。

私はそのような人になりたい

知れば知るだけ離れたくない人がある。

私はそのような人になりたい

語れば語るだけ教えられる人がある。

私はそのような人になりたい

## 一 悩み多き在家の上に

在家の生活態度は悩みの多い罪深いものであります。

昨夜夕食後、裏の方のお家では、ひどい家内喧嘩がはじまって、食器の飛ぶ音、壊れる音、泣き声、どなる声があさましく聞こえてきました。

こうしたことは時々、一家を襲ってくる悲しい嫌な地獄のようであります。

御文章の中で、蓮如様が思いきった断定を下しておられるのが少々味わえる気がします。上人は特に度々奥方をお迎え遊ばして、お子様方もかなり沢山あったようですから、特に家庭苦については深い体験をなさったのではありますまいか。近頃一家内と皆一緒に住まうようになって、今まで知らなかった戦いを自分の内に続けて行かねばならないことを知って、人生の苦悩の一層の深さを味わわせていただきます。

私は腹のよく立つ性格でありました。けれども、私は曠<sup>しん</sup>恚<sup>に</sup>の炎に焼かれている自分を、正しい冷たい智慧をもって見た時に、大変にあさましいのにあきれてからは、腹が立った時にはすぐ自分にかえて、自分の叡智の光で笑ってやることに致しました。「何だ馬鹿々々しい。何